

一地域における小児期からの成人病 予防に関するコホート調査研究

児童・生徒の成人病予防検診結果
(2グループでの3年毎の追跡調査結果の比較)

研究協力者 柴田 隆

【要旨】 われわれの伊豆長岡町では小児期からの成人病予防にとりくんで5年間を経過した。92年より小学校4年生と中学校1年生の児童・生徒を対象にして成人病予防検診を行い、その結果に基づいて生活・食事指導を個別あるいは集団で行ってきた。その他にPTA会員を対象にした成人病予防の啓蒙活動として成人病予防講演会・親子料理教室の開催などを行っている。本年度は92年に小学校4年生、95年に中学校1年生の検査結果の得られたコホート調査グループ(コホート-92)と93年に小学校4年生、96年に中学校1年生の検査結果の得られたコホート調査グループ(コホート-93)の2グループの成人病予防検診結果の成績を得ることが出来たのでそれらの結果をまとめた。コホート92、コホート93のいずれのグループとも中学1年の時点で総コレステロール値は減少し、HDLコレステロール値は上昇していた。この結果、AI値としては統計学的に有意に改善した成績を得ることができた。肥満度についての検討では一定の傾向は得られなかった。同時に測定されている血圧の値についても検討した結果を報告した。今後の基礎資料の一つとなればと考える。

【見出し語】 総コレステロール値、HDLコレステロール値、AI値、コホート調査

【研究目的】 町をあげて健康づくりに取り組んでいるが、その一環として小児期よりの成人病予防を行っている。この成果をみるための基礎資料となる小児期における検査成績を個人レベルで収集しておくと同時にそのまとめを行って将来の個人の健康づくり、町としての健康づくりに役立たせるための資料とする。

【研究方法】 われわれの伊豆長岡町においておこなっている小児期からの成人病予防に対するとりくみの概要を表1に示した。このとりくみ活動から得られたそれぞれの成績をとりまとめを行い研究成績とした。

表1 小児期からの成人病予防対策の概要
(伊豆長岡町の取り組み)

- ①：成人病予防検診
対象：小・4、中・1
検診内容：問診(アンケート)、身体計測
内科検診、血圧測定、尿検査
血液検査：総コレステロール
HDLコレステロール
- ②：検診結果判定委員会
要管理児童生徒の決定
指導区分、指導方針、指導担当者等の決定
要医療、要精密検査、要経過観察、栄養指導、
生活指導、体重管理などに分けて
それぞれの分担者を決定して管理指導を行う
構成員
学校医、学校長、養護教諭、教育委員会
学校給食係、栄養士、保健婦、予防医学協会
- ③：成人病予防の啓蒙活動
講演会の開催、親子料理教室の開催
クラス別栄養指導、健康祭りへの参加等

順天堂大学医学部付属順天堂伊豆長岡病院小児科
Department of Pediatrics, JUNTENDO University Hospital at Izu-Nagaoka

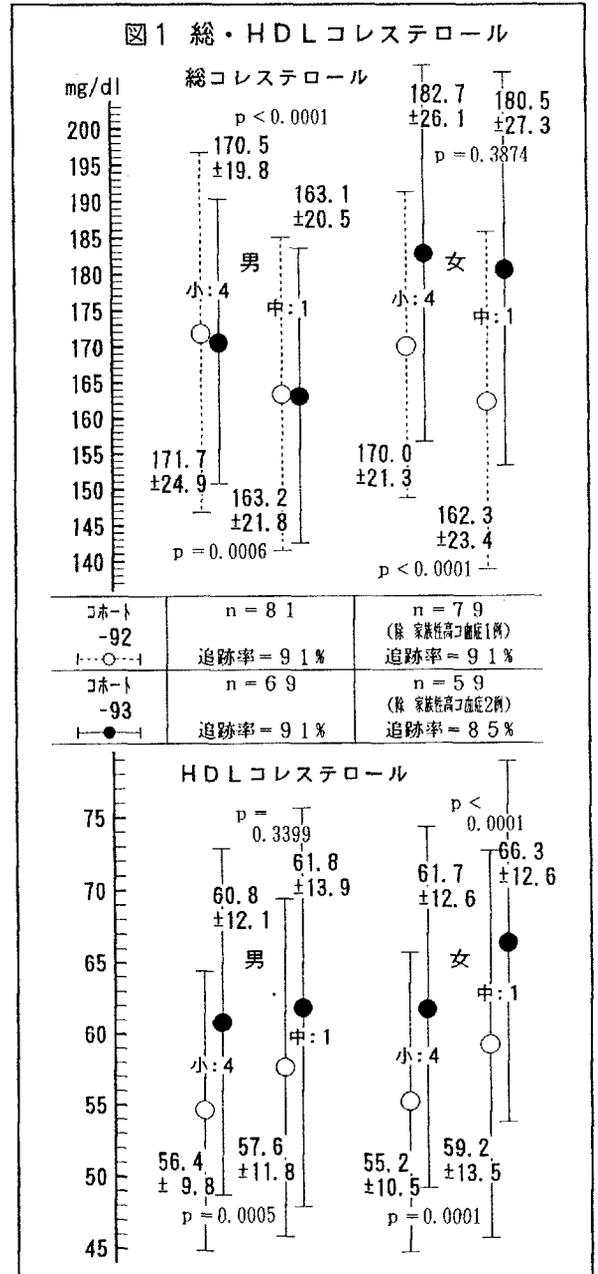
【研究成績結果】 92年に小学校4年生、95年に中学校1年生の成人病予防検診受診者をコホート92グループ、93年に小学校4年生、96年に中学校1年生で同様の検診受診者をコホート93グループとした。コホート92グループの成績については昨年度に報告したが男女ともに追跡率は91%であった。

本年度新しく追加するコホート93グループの追跡率は男子で91%、女子では85%であった。尚、家族性高コレステロール血症の例が、コホート92グループに1名、コホート93グループに2名あり、いずれも女子でこのうちの各1名は姉妹例であり、以後の成績検討からは除外した。家族性高コレステロール血症が2家系あることが判明した。

総コレステロール値とHDLコレステロール値を図1に平均値±1SDで示している。図より明らかなように総コレステロールは、男子ではコホート92、93のいずれものグループにおいても中学1年生の時点で統計学的に有意に減少した。女子ではコホート92グループでは、男子と同様に中学1年生で統計学的に有意に減少をみているが、コホート93グループでは、その平均値において減少をみているものの統計学的有意差はみられなかった。また、コホート92グループより総コレステロール値が高い傾向を示していた。

HDLコレステロール値も平均値±1SDで図1に示すが、男子では、コホート92グループで中学1年生で統計学的に有意の上昇を示したがコホート93グループでは平均値において上昇をみていたものの統計学的有意差はみられていなかった。女子では、統計学的有意差をもってコホート92グループ、コホート93グループ

のいずれもが中学1年生の時点で上昇をみている。男子でのHDLコレステロール値、女子での総コレステロール値については、期待に反する結果はあったが、経年的の変化としてよいかどうかは、従来の成績とともに、今後の成績を加えて検討すべき問題でもある。しかし、今回のコホート研究としては総合的にみたAI値が、男女ともにコホート92、93のいずれのグループにおい



でも改善がみられておりわれわれの取り組みによる成果としたい。

図2に、平均値±1SDで示す肥満度については、昨年度までと同様に一定の傾向はみられていなかった。また、ここにその成績は示さないが、3才時点の肥満度との関連も後方視的に検討したが（追跡率84%）特別の傾向は得られなかった。肥満度の改善に関しては生活・栄養指導を行ってはいるが多くの要因を含んでおり今後も改善のための長期的な取り組みが必要であるとともに多方面からの取り組みの必要性のあることを痛感している。例えば、女子の場合、特に中学1年生では前思春期にあるために細心の注意を行いながらの指導も必要となる。

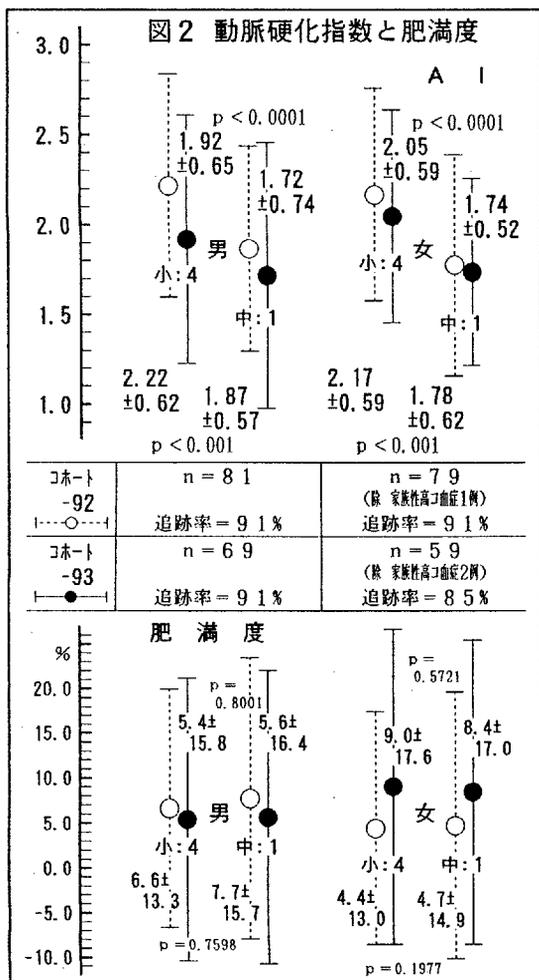
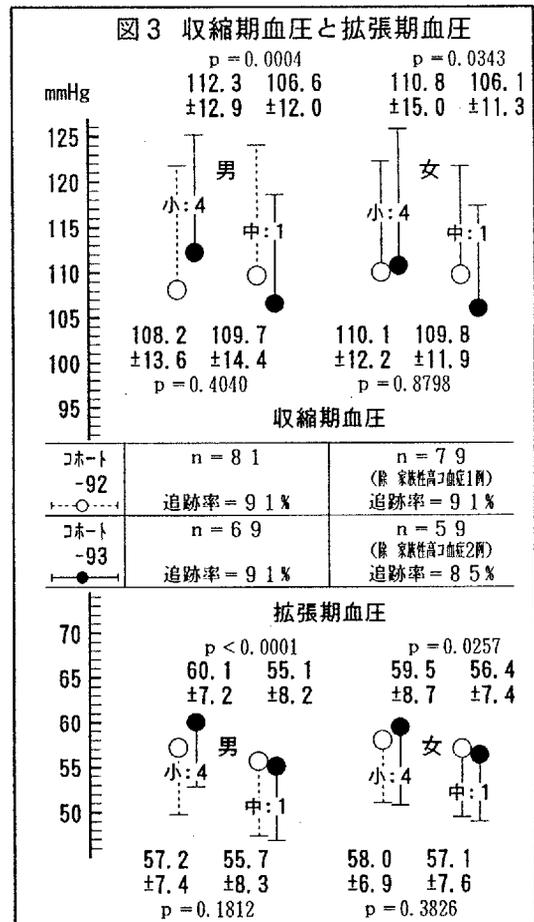


図3には、血圧の経過をまとめて示した。コホート92グループでは有意差はみられなかった。コホート93グループの男子で収縮期血圧において統計学的に有意の減少がみられたが、測定時の条件などもあり今後検討する課題であると同時に、学童・生徒の正常値を検討するための一つの基準となればと考えるものであり、今後も検討していく予定である。



【結語】 小児期からの成人病の予防の一環として、われわれの伊豆長岡町で取り組んできた成績の内、小学校4年生および中学校1年生の時点における総コレステロール値、HDLコレステロール値、AI値、肥満度、収縮期および拡張期の血圧値について報告した。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



[要 旨] われわれの伊豆長岡町では小児期からの成人病予防にとりくんで 5 年間を経過した。92 年より小学校 4 年生と中学校 1 年生の児童・生徒を対象にして成人病予防検診を行い、その結果に基づいて生活・食事指導を個別あるいは集団で行ってきた。その他に PTA 会員を対象にした成人病予防の啓蒙活動として成人病予防講演会・親子料理教室の開催などを行っている。本年度は 92 年に小学校 4 年生、95 年に中学校 1 年生の検査結果の得られたコホート調査グループ(コホート-92)と 93 年に小学校 4 年生、96 年に中学校 1 年生の検査結果の得られたコホート調査グループ(コホート-93)の 2 グループの成人病予防検診結果の成績を得ることが出来たのでそれらの結果をまとめた。コホート 92、コホート 93 のいずれのグループとも中学 1 年の時点で総コレステロール値は減少し、HDL コレステロール値は上昇していた。この結果、AI 値としては統計学的に有意に改善した成績を得ることができた。肥満度についての検討では一定の傾向は得られなかった。同時に測定されている血圧の値についても検討した結果を報告した。今後の基礎資料の一つとなればと考える。